

《論文》

『日本広東学習新語書』及び 『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』所 収の符号仮名(4)

山村 敏江

はじめに

神田外語大学神田佐野文庫所蔵『日本広東学習新語書』について、共同研究プロジェクトとして音韻面・語彙面の研究が進められている。本稿では、山村2019・2020・2021に引き続き、臨時台湾戸口調査部による『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』及び台湾総督府による『広東語辞典』を比較対象として使用する。最終的には、これらの資料に使われる仮名表記（符号仮名⁽¹⁾）・字音体系の整理を通じて全面的な比較を目指す。

本稿では、上記三点の資料に使われる仮名表記の一部を、台湾客家語の二大勢力とされる四県音・海陸音の字音に基づき分類、考察を行うこととする。

なお、『日本広東学習新語書』（以下『新語書』）、『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』（以下『用語（広東語）』）については山村2019、『広東語辞典』の概要については山村2021に述べたところであるため、本稿では省略する。

1. 台湾客家語とカタカナによる音注

日本統治期の台湾では、台湾語（ホーロー語⁽²⁾）や「広東語⁽³⁾」（客家語）を学習する日本人のための仮名表記（符号仮名）が作成され、これらを使用した学習書や辞書が刊行された。

ホーロー語については、台湾統治のごく初期から、カタカナによる音注の施された書籍が各種刊行された。1901年に漳州語から廈門語へと依拠する音が変更され⁽⁴⁾、それに伴う改訂を経て、最終的に依拠すべき統一的な基準と認識さ

れるに至った。

それに対し「広東語」の音注については、統一的な基準は存在しなかったことが、いくつかの資料から見て取れる⁽⁵⁾。そもそも、専用のものが作成されたわけではなく、ホーロー語のために作成された符号仮名を「広東語」に転用したのである。ただ、「広東語」にのみ存在する音については新たに作成する必要があった。例えば、『用語（広東語）』（1905年）ではv-は全てバ行で表記されるが、これはホーロー語の音注にはv-に相当するものがなかったため、それを踏襲した結果である。その後、v-は「ヴー」で表記されることが増え、『広東語辞典』（1932年）では、v-は全て「ヴー」で表記されるようになったのである。

日本統治期を通じて、「広東語」音注の統一的な基準が定まらなかったのは、内部差異の大きさ⁽⁶⁾と接触による混淆がその理由であろう。山村2021では、蟹撮・止撮・遇撮の舌音・歯音字の仮名転写について考察を行った。その結果、凡例に四県音に依拠するとの記述がある『広東語辞典』が、蟹撮・止撮・遇撮の舌音・歯音字については、むしろ海陸音との近似性を示すことが分かった。これが部分的・限定的なものか、あるいは全体的なものであるかについては更なる考察を要するが、四県音系の中に見られる海陸音、あるいは海陸音系の中に見られる四県音、更にその他の方言音等を、慎重に分類する必要がある。

2. 影母・以母・云母・日母字の仮名転写

本稿では、『汉语方音字汇』より影母・以母・云母・日母字を抽出し、それぞれ『新語書』・『用語（広東語）』・『広東語辞典』における表記を示す。それを十六摂及び声母によって分けた後、四県音と海陸音の字音に基づき考察を行うこととする。同一グループ内での配列は、開合→等位→声調→韻目の順に従う。四県音・海陸音の字音は、全て『教育部 臺灣客家語常用詞辭典』による。

『広東語辞典』記載の声調符号は省略した。ただし、凡例の説明文を見る限り、調値は四県音のものと判断できるので、四県音・海陸音で共通の声母・韻母を持つ場合、『広東語辞典』の欄に書かれる音注は四県音と判断する。本節では、以下これについて言及しない。

なお、本節では『用語（広東語）』は『用語』、『広東語辞典』は『辞典』とする。

2.1 通摂

原則として、一等は四県音・海陸音共に vun （入声は vuk ）、三等は四県音 iun — 海陸音 $ɜun$ （入声は iuk — $ɜuk$ ）となる。

2.1.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	摂	開合	等位	声調	韻目	声母
翁	ヴン			通	合	一	平	東	影
甕	ヴン			通	合	一	去	送	影
屋	ヴツ	ブツ	ヴク	通	合	一	入	屋	影

①平・上・去声（合口） 四県 vun — 海陸 vun （翁・甕）

『新語書』では、 $-n$ ・ $-ŋ$ は共に「-ン」と表記されることから、「翁・甕：ヴン」は、四県音・海陸音と一致するものと判断できる。

②入声（合口） 四県 vuk — 海陸 vuk （屋）

入声の表記については、一律に「-ツ」を用いるものと、 $-p$ ・ $-t$ ・ $-k$ をそれぞれ「-プ」「-ツ」「-ク」と表記するものに分かれる。『新語書』では基本的に「-ツ」で表記され、『辞典』では「-プ」「-ツ」「-ク」と表記されることから、『新語書』「屋：ヴツ」、『辞典』「屋：ヴク」は共に四県音・海陸音と一致する。

『用語』では、基本的に「-プ」「-ツ」「-ク」と表記されるが、実際には「屋：ブツ」のように多少のブレが見られる。また、『用語』では声母 $v-$ はバ行で表記されることから、「屋：ブツ」も四県音・海陸音と一致するものと考えられる。

2. 1. 2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
融	イユン		ユン	通	合	三	平	東	以
容	イヨン		ユン	通	合	三	平	鍾	以
溶			ユン	通	合	三	平	鍾	以
勇	イユン	ユン	ユン	通	合	三	上	腫	以
湧	イユン		ユン	通	合	三	上	腫	以
用	イユン ユーン	ギユン ユン	ユン	通	合	三	去	用	以
育			ユク	通	合	三	入	屋	以
欲	イユツ (オイ)		ユク	通	合	三	入	燭	以
浴	イユツ			通	合	三	入	燭	以

①平・上・去声（合口） 四県 iuŋ — 海陸 ɜuŋ（融・溶・勇・湧・用）

基本的に『新語書』では「イユン」、『用語』『辞典』では「ユン」と表記される。これらは四県音 iuŋ と一致する。『新語書』で「イユン」と表記されるのは、介音 i を意識した結果であろう。また、『辞典』「用：ギユン」は、日本語の「イ」より舌面が高く、半母音に近い音をガ行で転写したものと考えられる。

『新語書』「容：イヨン」は、ホーロー語 ioŋ（陽平声）の影響が考えられる。

②入声（合口） 四県 iuk — 海陸 ɜuk（育・欲・浴）

『新語書』では「イユツ」、『辞典』では「ユク」と表記される。これらは四県音 iuk と一致する。

『新語書』「欲：オイ」は、「愛：オイ」の字音を用いた訓読と考えられる。

2. 1. 3 云母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
熊	イユン ユン		ユン	通	合	三	平	東	云
雄			ヒウン	通	合	三	平	東	云

『日本広東学習新語書』及び『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』所収の符号仮名(4)

①平・上・去声（合口） 四県 iuŋ — 海陸 ɜuŋ（熊）

四県 hiuŋ — 海陸 hiuŋ（雄）

『新語書』「熊：イユン／ユン」、『辞典』「ユン」は、四県音 iuŋ と一致する。

『辞典』「雄：ヒウン」は、四県音・海陸音と一致する。

2. 1. 4 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
絨	ジュン		ユン	通	合	三	平	東	日
肉	ギユツ ニユ		ニユク	通	合	三	入	屋	日
辱	ジュツ		ユク	通	合	三	入	燭	日
褥	ジュツ ジヨツ			通	合	三	入	燭	日

①平・上・去声（合口） 四県 iuŋ — 海陸 ɜuŋ（絨）

『新語書』「ジュン」は海陸音と、『辞典』「ユン」は四県音と一致する。

②入声（合口） 四県 niuk — 海陸 niuk（肉）

四県 iuk — 海陸 ɜuk（辱・褥）

『新語書』では、硬口蓋鼻音 $n-$ はガ行あるいはナ行に転写されるが、『辞典』では全てナ行に転写される。『新語書』「肉：ギユツ／ニユ」は、その違いを反映したものである。

『新語書』「辱・褥：ジュツ」は海陸音と、『辞典』「辱：ユク」は四県音と一致する。

『新語書』「褥：ジヨツ」は、ホーロー語 dziok（陽入声）の影響が考えられる。

2. 2 江撰

江撰の字は少ないため、ここで仮名転写を示すことができるのは「握」一字のみである。

2.2.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
握	アッ		アク	江	開	二	入	覚	影

①入声（開口） 四県 vok — 海陸 vok（握）

四県音と海陸音で字音は共通しているが、『新語書』「アッ」、『辞典』「アク」共に一致しない。これについては、ホーロー語・廈門語の白話音 ak（陰入声）の影響が考えられる。

2.3 止撰

原則として、開口は四県音 i — 海陸音 zi、合口は四県音 vi — 海陸音 vui となる。

2.3.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
醫	ジー	ギイ	イイ	止	開	三	平	之	影
衣	イー ジ		イイ	止	開	三	平	微	影
依	イー		イイ	止	開	三	平	微	影
椅	イー ジー		イイ	止	開	三	上	紙	影
意	イー ジー	ギイ	イイ	止	開	三	去	志	影
威	ヴイ		ヴイ	止	合	三	平	微	影
委	ウイ		ヴイ	止	合	三	上	紙	影
畏	ヴイ		ヴイ	止	合	三	去	未	影
慰			ヴイ	止	合	三	去	未	影

①平・上・去声（開口） 四県 i — 海陸 zi（醫・衣・依・椅・意）

『新語書』「イー」、『辞典』「イイ」は四県音と一致する。また、『新語書』には「ジー」の表記も見られるが、こちらは海陸音と一致する。この字音の差異は語彙によるものではなく、四県音・海陸音が混在する状況を示している。

『用語』「醫・意：ギイ」は、2.1.2で述べたことから見て、四県音を表すものと考えられる。

②平・上・去声（合口） 四県 vi — 海陸 vui（威・委・畏・慰）

『新語書』『辞書』共に「ヱイ」と表記されるところから、海陸音を表すと考えられる。また、「ウイ」という表記も見られるが、これは v- が弱化したものと考えられる。

2.3.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
移			イイ	止	開	三	平	支	以
夷			イイ	止	開	三	平	脂	以
姨	イー ジー			止	開	三	平	脂	以
已	(キー) ジー	(キイ)		止	開	三	上	止	以
以	ジー	ギイ	イイ	止	開	三	上	止	以
易	イー ジー		イイ	止	開	三	去	寘	以
異	ジー		イイ	止	開	三	去	志	以
遺			ヱイ	止	合	三	平	脂	以
維			ヱイ	止	合	三	平	脂	以

①平・上・去声（開口） 四県 i — 海陸 zi（移・夷・姨・已・以・易・異）

2.3.1と同様に、『新語書』「イー」、『辞典』「イイ」は四県音と一致する。また、『新語書』「ジー」は海陸音と一致する。

『用語』「以：ギイ」は、2.3.1と同様に、四県音を表すものと考えられる。

『新語書』「已：キー」、『用語』「已：キイ」は、「既」の字音を用いた訓読と考えられる⁽⁷⁾。

②平・上・去声（合口） 四県 vi — 海陸 vui（遺・維）

2.3.1と同様に、『辞典』「ヱイ」は海陸音を表すと考えられる。

2.3.3 云母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
爲	ウイ	ビイ	ヱイ	止	合	三	平	支	云
				止	合	三	去	眞	云
違	ウイ		ヱイ	止	合	三	平	微	云
圍	ヱイ		ヱイ	止	合	三	平	微	云
偉			ヱイ	止	合	三	上	尾	云
位	ウイ	ウイ	ヱイ	止	合	三	去	至	云
胃	ウイ		ヱイ	止	合	三	去	未	云
謂	ヱイ		ヱイ	止	合	三	去	未	云
狷	ウイ			止	合	三	去	未	云

①平・上・去声（合口） 四県 vi — 海陸 vui（爲・違・圍・偉・位・胃・謂・狷）

2.3.1と同様に、『新語書』『用語』『辞典』の「ヱイ/ウイ」は海陸音を表すと考えられる。

2.1.1で述べたように、『用語』では声母 v- はバ行で表記されることから、『辞典』「爲：ビイ」は、四県音を表すと考えられる。

2.3.4 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
兒	ジー		イイ	止	開	三	平	支	日
而	ルー			止	開	三	平	之	日
耳	ギー ニー	ニイ	ニイイ	止	開	三	上	止	日
二	ニー	ニイ	ニイイ	止	開	三	去	至	日
蕊	ルイ			止	合	三	上	紙	日

①平・上・去声（開口） 四県 i — 海陸 zi（兒・而）

四県 ni — 海陸 ni（耳・二）

『新語書』「兒：ジー」は海陸音と、『辞典』「イイ」は四県音と一致する。

『新語書』「而：ルー」は、何を反映するものかは不明である。

『日本広東学習新語書』及び『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』所収の符号仮名(4)

『新語書』「耳・ニ：ニー」、『用語』「ニイ」、『辞典』「ニイイ」は四県音・海陸音と一致する。また、2.1.4で述べたことから見て、「ギー」も四県音・海陸音を表すと考えられる。

②平・上・去声（合口） 四県 lui — 海陸 lui

『新語書』「蕊：ルイ」は、四県音・海陸音と一致する。

2.4 遇撮

原則として、一等は四県音・海陸音共に vu、三等は四県音 i — 海陸音 zi となる。

2.4.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撮	開合	等位	声調	韻目	声母
烏	ウー		ヴウ	遇	合	一	平	模	影
惡			ヴウ	遇	合	一	去	暮	影
於	ジー	ギイ		遇	合	三	平	魚	影

①平・上・去声（合口） 四県 vu — 海陸 vu（烏・惡）

四県 i — 海陸 zi（於）

『新語書』「ウー」、『辞典』「ヴウ」は四県音・海陸音と一致する。

『新語書』「於：ジー」は海陸音と一致する。『用語』「ギイ」は、2.3.1と同様に、四県音を表すと考えられる。

2.4.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撮	開合	等位	声調	韻目	声母
餘	ジー		イイ	遇	合	三	平	魚	以
楡	ジー			遇	合	三	平	虞	以
與	ジー			遇	合	三	上	語	以
預	イー ジー		イイ(豫)	遇	合	三	去	御	以
譽			イイ	遇	合	三	去	御	以
裕			イイ	遇	合	三	去	遇	以
喻			イイ	遇	合	三	去	遇	以

①平・上・去声（合口） 四県 i — 海陸 ʒi（餘・楡・與・預・譽・裕・諭）

2.3.1と同様に、『新語書』「イー」、『辞典』「イイ」は四県音と一致する。また、『新語書』「ジー」は海陸音と一致する。

2.4.3 云母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
雨	ジー ユー		イイ	遇	合	三	上	麌	云

①平・上・去声（合口） 四県 i — 海陸 ʒi（雨）

『新語書』「ジー」は海陸音と、『辞典』「イイ」は四県音と一致する。

『新語書』「雨：ユー」は官話の影響が考えられる。

2.4.4 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
如	イー ジー			遇	合	三	平	魚	日
儒			イイ	遇	合	三	平	虞	日
乳	ネン		ネヌ	遇	合	三	上	麌	日

①平・上・去声（合口） 四県 i — 海陸 ʒi（如・儒・乳）

2.3.1と同様に、『新語書』「如：イー」、『辞典』「儒：イイ」は四県音と一致する。また、『新語書』「如：ジー」は海陸音と一致する。

「乳」には、四県音・海陸音共に nen という別音がある。『新語書』「ネン」、『辞典』「ネヌ」はこの別音と一致する。

2.5 蟹攝

原則として、開口一等は四県音・海陸音共に oi、開口二等は四県音・海陸音共に ai、合口三等は四県音 vi — 海陸音 vui となる。

2.5.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
哀		オイ	オイ	蟹	開	一	平	哈	影
愛	アイ オイ ゴイ	オイ	オイ	蟹	開	一	去	代	影
挨	アイ			蟹 蟹	開 開	二 二	平 平	皆 佳	影 影
矮			アイ	蟹	開	二	上	蟹	影

①平・上・去声（開口） 四県 oi — 海陸 oi（哀・愛）

四県 ai — 海陸 ai（挨・矮）

『新語書』「愛：オイ」、『用語』「哀・愛：オイ」、『辞典』「哀・愛：オイ」は四県音・海陸音と一致する。

『新語書』「愛：アイ」は官話の影響が考えられる。「ゴイ」は何を反映するものかは不明である。

『新語書』「挨：アイ」、『辞典』「矮：アイ」は四県音・海陸音と一致する。

2.5.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
銳			ユイ	蟹	合	三	去	祭	以

①平・上・去声（合口） 四県 iui — 海陸 zui（銳）

『辞典』「銳：ユイ」は、四県音と一致する。

2.5.3 云母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
衛	ウイ ヱイ		ヱイ	蟹	合	三	去	祭	云

①平・上・去声（合口） 四県 vi — 海陸 vui（衛）

2.3.1と同様に、『新語書』『辞典』の「ヱイ／ウイ」は海陸音を表すと

考えられる。

2.6 臻摂

原則として、開口一等は四県音・海陸音共に en、開口三等は四県音 in — 海陸音 ɣin（入声は it — ɣit）、合口一等は四県音・海陸共に vun、合口三等は四県音 iun — 海陸音 ɣun（入声は iut — ɣut）となる。

2.6.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	摂	開合	等位	声調	韻目	声母
恩	エン		エヌ	臻	開	一	平	痕	影
因	イン ジン	ギン	イヌ	臻	開	三	平	真	影
姻	ジン		イヌ	臻	開	三	平	真	影
殷	ジン			臻	開	三	平	欣	影
隱			ユヌ	臻	開	三	上	隱	影
印	イン ジン		イヌ	臻	開	三	去	震	影
一	イッ ジッ ヂッ	ギツ	イッ	臻	開	三	入	質	影
乙	ジャッ		ヤッ	臻	開	三	入	質	影
溫	ヴン		ヴヌ	臻	合	一	平	魂	影
瘟	ヴン		ヴヌ	臻	合	一	平	魂	影
穩			ヴヌ	臻	合	一	上	混	影
𩇛	ウワン			臻	合	三	去	問	影
鬱	ジュッ		ユッ	臻	合	三	入	物	影

①平・上・去声（開口） 四県 en — 海陸 en（恩）

四県 in — 海陸 ɣin（因・姻・殷・印）

『辞典』では、-n は「-ヌ」と表記されることから、『新語書』「恩：エン」、『辞書』「エヌ」は、四県音・海陸音と一致するものと判断できる。

『新語書』「因・姻・殷・印：ジン」は海陸音と、『新語書』「因・印：イン」、『辞典』「因・姻・印：イヌ」は四県音と一致する。

『日本広東学習新語書』及び『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』所収の符号仮名(4)

『辞典』「隠：ユヌ」は、梅県語 iun（上声）の反映と考えられる。

②平・上・去声（合口） 四県 vun — 海陸 vun（温・瘟・穩）

四県 iun — 海陸 zun（熨）

『新語書』「温・瘟：ヴン」、『辞典』「温・瘟・穩：ヴヌ」は四県音・海陸音と一致する。

『新語書』「熨：ウワン」は、広州語 wen（陽去声）の影響が考えられる。

③入声（開口） 四県 it — 海陸 zit（一）

四県 iet — 海陸 zat（乙）

『新語書』「一：ジッ／ヂッ」は海陸音と、『新語書』「イツ」、『辞典』「イツ」は四県音と一致する。『用語』「ギツ」は、2.1.2で述べたことから見て、四県音を表すものと考えられる。

『新語書』「乙：ジャッ」は海陸音と、『辞典』「ヤッ」は四県音と一致する。

④入声（合口） 四県 iut — 海陸 zut（鬱）

『新語書』「鬱：ジュッ」は海陸音と、『辞典』「ユッ」は四県音と一致する。

2.6.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
寅	ジー			臻	開	三	平	真	以
引	イン		イヌ	臻	開	三	上	軫	以

①平・上・去声（開口） 四県 i — 海陸 zi（寅）

四県 in — 海陸 zin（引）

『新語書』「寅：ジー」は、海陸音と一致する。

『新語書』「引：イン」、『辞典』「イヌ」は四県音と一致する。

2.6.3 云母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
雲	ユン ジュン		ユヌ	臻	合	三	平	文	云
韻	ジュン ジューン		ユヌ	臻	合	三	去	問	云
運			ユヌ	臻	合	三	去	問	云

①平・上・去声（合口） 四県 iun — 海陸 ɰun（雲・韻・運）

『新語書』「ジュン／ジューン」は海陸音と、『辞典』「ユヌ」は四県音と一致する。また、『新語書』には「雲：ユン」の表記もあるが、これは四県音と一致する。

2.6.4 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
人	ギン	ニン	ニィヌ	臻	開	三	平	真	日
仁	ジン		ィヌ	臻	開	三	平	真	日
忍	ギュン		ニユヌ	臻	開	三	上	軫	日
認	ギン		ニィヌ	臻	開	三	去	震	日
日	ニッ ヂッ	ニツ	ニィツ	臻	開	三	入	質	日
潤			ユヌ	臻	合	三	去	稇	日
閏	ジュン		ユヌ	臻	合	三	去	稇	日

①平・上・去声（開口） 四県 nin — 海陸 nin（人・認）

四県 in — 海陸 ɰin（仁）

四県 niun — 海陸 niun（忍）

『新語書』「人・認：ギン」、『用語』「ニン」、『辞典』「ニィヌ」は2.1.4で述べたことから見て、四県音・海陸音を表すものと考えられる。

『新語書』「仁：ジン」は海陸音と、『辞典』「ィヌ」は四県音と一致する。

『新語書』「忍：ギュン」、『辞典』「ニユヌ」は四県音・海陸音と一致する。

②平・上・去声（合口） 四県 iun — 海陸 ɰun（潤・閏）

『日本広東学習新語書』及び『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』所収の符号仮名(4)

『新語書』「閩：ジュン」は海陸音と、『辞典』「潤・閩：ユヌ」は四県音と一致する。

③入声（開口） 四県 jit — 海陸 jit（日）

『新語書』「日：ニツ」、『用語』「ニツ」、『辞典』「ニイッ」は四県音・海陸音と一致する。

『新語書』「日：ヂッ」は、ホーロー語 dzit（陽入声）の影響が考えられる。

2.7 山攝

原則として、開口一等は四県音・海陸音共に on、開口三等・四等は四県音 ien — 海陸音 zan、合口一等は四県音・海陸音共に von、合口二等は四県音・海陸音共に van、合口三等は四県音 ien — 海陸音 zan（入声は iet — zat）となる。

2.7.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	攝	開合	等位	声調	韻目	声母
安	アン オン	アヌ	オヌ	山	開	一	平	寒	影
鞍			オヌ	山	開	一	平	寒	影
按	オン		アヌ オヌ	山	開	一	去	翰	影
案	オン		オヌ	山	開	一	去	翰	影
烟	イヤン ジャン	ギエヌ ゲヌ	ヤヌ	山	開	四	平	先	影
燕	ジャン		ヤヌ	山	開	四	去	霰	影
宴			ヤヌ	山	開	四	去	霰	影
噎	エツ		エツ	山	開	四	入	屑	影
碗	ヴオン ヴオン ワン		ヴォヌ	山	合	一	上	緩	影
灣	ワン	バン	ヴァヌ	山	合	二	平	刪	影
冤	ジャン		ヤヌ	山	合	三	平	元	影
怨	ジャン		ヤヌ	山	合	三	去	願	影
淵			ヤヌ	山	合	四	平	先	影

①平・上・去声（開口） 四県 on — 海陸 on（安・鞍・按・案）

四県 ien — 海陸 zan（烟・燕・宴）

『新語書』「安・按・案：オン」、『辞典』「安・鞍・按・案：オヌ」は四県音・海陸音と一致する。しかし、『新語書』「安：アン」、『用語』「アヌ」、『辞典』「按：アヌ」については四県音・海陸音共に一致しない。「安」については官話の影響が考えられるが、「按：アヌ」は「按仔アヌエエ」と書かれていることから、一種の訓読と考えられる。

『新語書』「烟・燕：ジャン」は海陸音と、『用語』「烟：ギエヌ／ゲヌ」は四県音と一致するが、『新語書』「烟：イヤン」、『辞典』「烟・燕・宴：ヤヌ」については四県音・海陸音共に一致しない。これらはホーロー語・梅県語では全て ian と発音される^⑧ことから、この字音を反映するものと考えられる。

②平・上・去声（合口） 四県 von — 海陸 von（碗）

四県 van — 海陸 van（灣）

四県 ien — 海陸 zan（冤・怨・淵）

『新語書』「碗：ヴォン／ヴォーン」、『辞典』「ヴォヌ」は四県音・海陸音と一致する。

『用語』「灣：バン」、『辞典』「ヴァヌ」は四県音・海陸音と一致する。

『新語書』「碗：ワン」「灣：ワン」は、官話の影響が考えられる。

『新語書』「冤・怨：ジャン」は海陸音と一致するが、『辞典』「冤・怨・淵：ヤヌ」は四県音・海陸音共に一致しない。これらは梅県語では全て ian と発音されることから、この字音を反映するものと考えられる。

③入声（開口） 四県 et — 海陸 et（噎）

『新語書』「噎：エツ」、『辞典』「エツ」は四県音・海陸音と一致する。

2.7.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
延	ジヤン		ヤヌ	山	開	三	平	仙	以
演			ヤヌ	山	開	三	上	獮	以
鉛	ジヤン		ヤヌ	山	合	三	平	仙	以
沿			ヤヌ	山	合	三	平	仙	以
縁	ヤン		ヤヌ	山	合	三	平	仙	以
閔			ヤッ	山	合	三	入	薛	以

①平・上・去声（開口） 四県 ien — 海陸 zan（延・演）

②平・上・去声（合口） 四県 ien — 海陸 zan（鉛・沿・縁）

2.7.1と同様に、『新語書』「延・鉛：ジヤン」は海陸音と一致するが、『新語書』「縁：ヤン」、『辞典』「延・演：ヤヌ」「鉛・沿・縁：ヤヌ」は四県音・海陸音共に一致しない。これらは梅県語では全て ian と発音されることから、この字音を反映するものと考えられる。

③入声（合口） 四県 iet — 海陸 zat（閔）

『辞典』「閔：ヤッ」も四県音・海陸音共に一致しない。これも梅県語では iat（陽入声）と発音されることから、この字音を反映するものと考えられる。

2.7.3 云母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
員	ジヤン	ゲヌ	ヤヌ	山	合	三	平	仙	云
圓	ジヤン		ヤヌ	山	合	三	平	仙	云
園	イエ イヤ ジヤ ヤン	ゲヌ	ヤヌ	山	合	三	平	元	云
援			ヤヌ	山	合	三	平	元	云
遠	ヤン	ゲン	ヤヌ	山	合	三	上	阮	云
院	ジヤン		ヤヌ	山	合	三	去	線	云
越			ヤッ	山	合	三	入	月	云

①平・上・去声（合口） 四県 ien — 海陸 zan（員・圓・園・援・遠・院）

2.7.1、2.7.2と同様に、『新語書』「貝・圓・園・院：ジヤン」は海陸音と、『新語書』「園：イエン」、『用語』「貝・園・遠：ゲヌ／ゲン」は四県音と一致するが、『新語書』「園：イヤン／ヤン」「遠：ヤン」、『辞典』「貝・圓・園・援・遠・院：ヤヌ」については四県音・海陸音共に一致しない。これらは梅県語では全てianと発音されることから、この字音を反映するものと考えられる。

②入声（合口） 四県 iet — 海陸 zat（越）

『辞典』「越：ヤッ」も四県音・海陸音共に一致しない。梅県語ではiat（陽入声）と発音されることから、この字音を反映するものと考えられる。

2.7.4 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
然	ジヤン	ギエン	ヤヌ	山	開	三	平	仙	日
熱	ギエツ キヤ ギヤ ギヤツ ニヤ	ゲツ	ニヤツ	山	開	三	入	薛	日
軟			ニヨヌ	山	合	三	上	獮	日

①平・上・去声（開口） 四県 ien — 海陸 zan（然）

『新語書』「然：ジヤン」は海陸音と、『用語』「ギエン」は四県音と一致するが、『辞典』「ヤヌ」については四県音・海陸音共に一致しない。梅県語ではian（陽平声）と発音されることから、この字音を反映するものと考えられる。

②平・上・去声（合口） 四県 nion — 海陸 nion（軟）

『辞典』「軟：ニヨヌ」は四県音・海陸音と一致する。

③入声（開口） 四県 niet — 海陸 niet（熱）

『新語書』「熱：ギエツ」は四県音・海陸音と一致するが、その他の「キヤ／ギヤ／ギヤツ／ニヤ」については四県音・海陸音共に一致しない。梅県語ではniet（陽入声）と発音されることから、この字音を反映するものと考えられる。

2.8 效撰

原則として、一等は四県音・海陸音共に o、三等は四県音 ieu — 海陸音 zau となる。

2.8.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
奥	オー		オオ	效	開	一	去	号	影
妖			エウ	效	開	三	平	宵	影
邀	キヤウ ギヤウ チヤウ		エウ	效	開	三	平	宵	影
要	ジヤウ ヤウ	ゲウ	エウ	效 效	開 開	三 三	平 去	宵 笑	影 影
腰	ジヤウ ヤウ		エウ	效	開	三	平	宵	影

①平・上・去声（開口） 四県 o — 海陸 o（奥）

四県 ieu — 海陸 zau（妖・邀・要・腰）

『新語書』「奥：オー」、『辞典』「オオ」は四県音・海陸音と一致する。

『新語書』「邀・要・腰：チヤウ／ジヤウ」は海陸音と、『用語』「要：ゲウ」、『辞典』「妖・邀・要・腰：エウ」は四県音と一致する。

『新語書』「邀：キヤウ／ギヤウ」「要・腰：ヤウ」については四県音・海陸音共に一致しない。これらはホーロー語・梅県語では全て iau と発音される⁽⁹⁾ことから、この字音を反映するものと考えられる。

2.8.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
揺	ヤウ		エウ	效	開	三	平	宵	以
遙			エウ	效	開	三	平	宵	以
耀			エウ	效	開	三	去	笑	以

①平・上・去声（開口） 四県 ieu — 海陸 zau（揺・遙・耀）

『辞典』「揺・遙・耀：エウ」は四県音と一致するが、『新語書』「揺：ヤウ」については四県音・海陸音共に一致しない。「揺」はホーロー語の文言音・梅県語で iau（陽平声）と発音されることから、この字音を反映するものと考えられる。

2.8.3 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
饒			ニェウ	效	開	三	平	宵	日
擾	ジヤウ			效	開	三	上	小	日

①平・上・去声（開口） 四県 nieu — 海陸 niau（饒）

『辞典』「ニェウ」は、四県音と一致する。

『新語書』「擾：ジヤウ」は、ホーロー語 dziau（陰上声）の影響が考えられる。

2.9 果撮

原則として、開口は四県音・海陸音共に a、合口は四県音・海陸音共に vo となる。

2.9.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
阿	ア		アア	果	開	一	平	歌	影
窩	ヴォー		ヴォオ	果	合	一	平	戈	影

①平・上・去声（開口） 四県 a — 海陸 a（阿）

『新語書』「ア」、『辞典』「アア」は四県音・海陸音と一致する。

②平・上・去声（合口） 四県 vo — 海陸 vo（窩）

『新語書』「ヴォー」、『辞典』「ヴォオ」は四県音・海陸音と一致する。

2.10 假撮

原則として、二等は四県音・海陸音共に a、三等は四県音 ia — 海陸音 za

となる。

2.10.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
鴉	ア アー		アア	假	開	二	平	麻	影
啞	アー	アア	アア	假	開	二	上	馬	影
亞			アア	假	開	二	去	禡	影

①平・上・去声（開口） 四県 a — 海陸 a（鴉・啞・亞）

『新語書』「ア／アー」、『用語』「アア」、『辞典』「アア」は四県音・海陸音と一致する。

2.10.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
也	ヤ ヤー	ギヤア	ヤア	假	開	三	上	馬	以
野	ヤー		ヤア	假	開	三	上	馬	以
夜	ヤー	ギヤア	ヤア	假	開	三	去	禡	以

①平・上・去声（開口） 四県 ia — 海陸 3a（也・野・夜）

『新語書』「ヤ／ヤー」、『辞典』「ヤア」は四県音と一致する。

『用語』「ギヤア」は、2.1.2で述べたことから見て、四県音を表すものと考えられる。

2.10.3 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
惹			ニャア	假	開	三	上	馬	日

①平・上・去声（開口） 四県 nia — 海陸 nia（惹）

『辞典』「ニャア」は、四県音・海陸音と一致する。

2.11 宕撮

原則として、開口一等入声は四県音・海陸音共に ok、開口三等は四県音 ion
— 海陸音 3on (入声は iok — 3ok)、合口三等は四県音・海陸音共に von となる。

2.11.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撮	開合	等位	声調	韻目	声母
悪	オツ		オク	宕	開	一	入	鐸	影
央	イヨン		ヨン	宕	開	三	平	陽	影
約	ジヨツ	イヨク ギヨク	ヨク	宕	開	三	入	藥	影
枉	ウオン		ヴォン	宕	合	三	上	養	影

①平・上・去声（開口） 四県 ok — 海陸 ok（悪）

四県 ion — 海陸 3on（央）

『新語書』「悪：オツ」、『辞典』「オク」は四県音・海陸音と一致する。

『新語書』「央：イヨン」、『辞典』「ヨン」は四県音と一致する。

②平・上・去声（合口） 四県 von — 海陸 von（枉）

『新語書』「ウオン」、『辞典』「ヴォン」は四県音・海陸音と一致する。

③入声（開口） 四県 iok — 海陸 3ok（約）

『新語書』「約：ジヨツ」は海陸音と、『用語』「イヨク」、『辞典』「ヨク」は四県音と一致する。『用語』「ギヨク」は、2.1.2で述べたことから見て、四県音を表すものと考えられる。

2.11.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
羊	イヨン		ヨン	宥	開	三	平	陽	以
洋	イヨン ヨン		ヨン	宥	開	三	平	陽	以
楊	イヨン		ヨン	宥	開	三	平	陽	以
陽	イヨン	ギヨン	ヨン	宥	開	三	平	陽	以
養	イヨン	ギヨン	ヨン	宥	開	三	上	養	以
痒	シヨン		ヨン	宥	開	三	上	養	以
恙		ギヨン ニヨン		宥	開	三	去	漾	以
様	イヨン ヤン ヨン	イヨン ギヨン	ヨン	宥	開	三	去	漾	以
薬	ジヨツ	ギヨク	ヨク	宥	開	三	入	藥	以

①平・上・去声（開口） 四県 ion — 海陸 ɔŋ（羊・洋・楊・陽・養・痒・恙・様）

『新語書』「羊・洋・楊・陽・養・様：イヨン／ヨン」、『用語』「陽・養・恙・様：イヨン／ギヨン」、『辞典』「羊・洋・楊・陽・養・痒・様：ヨン」は四県音と一致する。

『新語書』「痒：シヨン」は、何を反映するものかは不明である。あるいは誤記かもしれない。

『用語』「恙：ニヨン」は、-n で終わる音節に後続する場合、ion の前に n が挿入され niŋ となった結果を反映するものと考えられる。

『新語書』「様：ヤン」は、官話の影響が考えられる。

②入声（開口） 四県 iok — 海陸 ɔk（薬）

『新語書』「薬：ジヨツ」は海陸音と、『用語』「ギヨク」、『辞典』「ヨク」は四県音と一致する。

2.11.3 云母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
王	ヴォン		ヴォン	宕	合	三	平	陽	云
往	ヴォン ヴォーン		ヴォン	宕	合	三	上	養	云
旺			ヴォン	宕	合	三	去	漾	云

①平・上・去声（合口） 四県 von — 海陸 von（王・往・旺）

『新語書』「ヴォン／ヴォーン」、『辞典』「ヴォン」は四県音・海陸音と一致する。

2.11.4 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
若	ジャッ ジヨク ジヨツ	ギヨク	ヨク	宕	開	三	入	藥	日
弱	ギヨツ ニヨツ		ニヨク	宕	開	三	入	藥	日

①入声（開口） 四県 iok — 海陸 zok（若）

四県 niok — 海陸 niok（弱）

『新語書』「若：ジヨク／ジヨツ」は海陸音と、『用語』「ギヨク」、『辞典』「ヨク」は四県音と一致する。

『新語書』で「ジヨク」が見られるが、入声は全て「ーッ」と表記する『新語書』において、-k 入声を表す数少ない例である。

『新語書』「若：ジャッ」は、潮州語の文言音 ziak（陽入声）の影響が考えられる。

『新語書』「弱：ギヨツ／ニヨツ」、『辞典』「ニヨク」は四県音・海陸音と一致する。

2.12 梗攝

原則として、開口二等は四県音 in — 海陸音 zin、開口三等は四県音

in — 海陸音 ʒin（入声は it — ʒit）もしくは iaŋ — ʒaŋ、合口三等は四県音 iaŋ — 海陸音 ʒaŋ もしくは iuŋ — ʒuŋ となる。

また、韻尾は -n（入声は -t）となるものが多い。

2.12.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
櫻	ジン		イヌ	梗	開	二	平	耕	影
鶯	エン		イヌ	梗	開	二	平	耕	影
鸚	ジン		イヌ	梗	開	二	平	耕	影
英	イン ジン	ギン	イヌ	梗	開	三	平	庚	影
嬰	ジン		イヌ	梗	開	三	平	清	影
影	イヤン		ヤン	梗	開	三	上	梗	影
益	ジッ ジー		イッ	梗	開	三	入	昔	影

①平・上・去声（開口） 四県 in — 海陸 ʒin（櫻・鶯・英・嬰）

四県 en — 海陸 en（鶯）

四県 iaŋ — 海陸 ʒaŋ（影）

『新語書』「櫻・鸚・英・嬰：ジン」は海陸音と、『新語書』「英：イン」、『用語』「英：ギン」、『辞典』「櫻・鶯・鸚・英・嬰：イヌ」は四県音と一致する。

「鶯」は多音字だが、四県音・海陸音共に en が基本の字音であり、四県音 in — 海陸音 ʒin は又音である。『新語書』の「エン」は、四県音・海陸音と一致する。

『新語書』「影：イヤン」、『辞典』「ヤン」は四県音・海陸音と一致する。

②入声（開口） 四県 it — 海陸 ʒit（益）

『新語書』「益：ジッ／ジー」は海陸音と、『辞典』「イッ」は四県音と一致する。

2.12.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
羸			ヤン	梗	開	三	平	清	以
液			イツ	梗	開	三	入	昔	以
亦	(イヤ) (イヤー) ジャツ			梗	開	三	入	昔	以
譯	ジツ	ギツ	イツ	梗	開	三	入	昔	以
易			イツ	梗	開	三	入	昔	以
營	ジヤン ジン		ヤン	梗	合	三	平	清	以
疫	ムツ			梗	合	三	入	昔	以
役			イツ	梗	合	三	入	昔	以

①平・上・去声（開口） 四県 iaŋ — 海陸 ɜaŋ（羸）

『辞典』「羸：ヤン」は四県音と一致する。

②平・上・去声（合口） 四県 iaŋ — 海陸 ɜaŋ（營）

『新語書』「營：ジヤン」は海陸音と、『辞典』「ヤン」は四県音と一致する。

『新語書』「營：ジン」は、何を反映するものかは不明である。

③入声（開口） 四県 it — 海陸 ɜit（液・亦・譯・易）

『新語書』「譯：ジツ」は海陸音と、『用語』「譯：ギツ」、『辞典』「液・譯・易：イツ」は四県音と一致する。

『新語書』「亦：イヤ／イヤー」は、「也」の字音を用いた訓読と考えられる。

『新語書』「亦：ジャツ」は、何を反映するものかは不明である。

④入声（合口） 四県 it — 海陸 ɜit（疫・役）

『辞典』「役：イツ」は、四県音と一致する。

『新語書』「疫：ムツ」は、何を反映するものかは不明である。

2.12.3 云母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
榮	イユン		ユン	梗	合	三	平	庚	云
永	イエ イユン		ユヌ	梗	合	三	上	梗	云

①平・上・去声（合口） 四県 iuŋ — 海陸 ɣuŋ（榮）

四県 iun — 海陸 ɣun（永）

『新語書』「榮：イユン」、『辞典』「ユン」は四県音と一致する。

『新語書』「永：イユン」、『辞典』「ユヌ」は四県音と一致する。

『新語書』「永：イエ」は、何を反映するものかは不明である。あるいは誤記かもしれない。

2.13 曾撮

原則として、開口三等は四県音 in — 海陸音 ɣin（入声は it — git）、合口三等は四県音・海陸音共に vet となる。

梗撮と同様、韻尾は -n（入声は -t）となるものが多い。

2.13.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
應	イン	ギヌ	イヌ	曾	開	三	平	蒸	影
	ジン	ギン		曾	開	三	去	澄	影
億	ジー		イイ	曾	開	三	入	職	影
抑	ジッ			曾	開	三	入	職	影

①平・上・去声（開口） 四県 in — 海陸 ɣin（應）

『新語書』「應：ジン」は海陸音と、『新語書』「イン」、『用語』「ギヌ／ギン」、『辞典』「イヌ」は四県音と一致する。

②入声（開口） 四県 i — 海陸 ɣi（億）

四県 it — 海陸 git（抑）

『新語書』「億：ジー」は海陸音と、『辞典』「イイ」は四県音と一致する。

『新語書』「抑：ジッ」は海陸音と一致する。

2.13.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
蠅	シユン		イヌ	曾	開	三	平	蒸	以
翼			イッ	曾	開	三	入	職	以

①平・上・去声（開口） 四県 in — 海陸 ʒin（蠅）

『辞典』「イヌ」は、四県音と一致する。

『新語書』「蠅：シユン」は、何を反映するものかは不明である。

②入声（開口） 四県 it — 海陸 ʒit（翼）

『辞典』「イッ」は、四県音・海陸音と一致する。

2.13.3 云母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
域			ヴェッ	曾	合	三	入	職	云

①入声（合口） 四県 vet — 海陸 vet（域）

『辞典』「ヴェッ」は、四県音・海陸音と一致する。

2.13.4 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
仍	ジーン		イヌ	曾	開	三	平	蒸	日

①平・上・去声（開口） 四県 in — 海陸 ʒin（仍）

『新語書』「ジーン」は海陸音と、『辞典』「イヌ」は四県音と一致する。

2.14 流撰

原則として、一等は四県音・海陸音共に eu、三等は四県音 iu — 海陸音 ʒiu となる。

2.14.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
欧			エウ	流	開	一	平	候	影
嘔			エウ	流	開	一	上	厚	影
優	イユー		ユウ	流	開	三	平	尤	影
幼	イユー		ユウ	流	開	三	去	幼	影

①平・上・去声（開口） 四県 eu — 海陸 eu（欧・嘔）

四県 iu — 海陸 ziu（優・幼）

『辞典』「欧・嘔：エウ」は、四県音・海陸音と一致する。

『新語書』「優・幼：イユー」、『辞典』「ユウ」は四県音と一致する。

2.14.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
悠	ユー		ユウ	流	開	三	平	尤	以
由	イユー ユー		ユウ	流	開	三	平	尤	以
油	ユー		ユウ	流	開	三	平	尤	以
遊	イユー ユー	リヤウ	ユウ	流	開	三	平	尤	以
誘			ユウ	流	開	三	上	有	以
釉			ユウ	流	開	三	去	宥	以

①平・上・去声（開口） 四県 iu — 海陸 ziu（悠・由・油・遊）

『新語書』「イユー／ユー」、『辞典』「ユウ」は四県音と一致する。

『用語』「遊：リヤウ」は、一種の訓読と考えられる。

2.14.3 云母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
郵	ジュー ユー		ユウ	流	開	三	平	尤	云
有	ユー	ユウ	ユウ	流	開	三	上	有	云
友	ユー		ユウ	流	開	三	上	有	云
又	イユ ジュー		ユウ	流	開	三	去	宥	云
右	イユー ユー		ユウ	流	開	三	去	宥	云
祐			ユウ	流	開	三	去	宥	云

①平・上・去声（開口） 四県 iu — 海陸 ɟiu（郵・有・友・又・右・祐）
『新語書』「ジュー」は海陸音と、『新語書』「イユ／イユー／ユー」、『用語』
「ユウ」、『辞典』「ユウ」は四県音と一致する。

2.14.4 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
柔	ジウ		ユウ	流	開	三	平	尤	日

①平・上・去声（開口） 四県 iu — 海陸 ɟiu（柔）
『新語書』「ジウ」は海陸音と、『辞典』「ユウ」は四県音と一致する。

2.15 深撰

原則として、四県音 im — 海陸音 ɟim となる。

2.15.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
音	ジム	ギム	イム	深	開	三	平	侵	影
陰	イム		イム	深	開	三	平	侵	影
飲	ジム		イム	深	開	三	上	寢	影

『日本広東学習新語書』及び『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』所収の符号仮名(4)

①平・上・去声（開口） 四県 im — 海陸 gim（音・陰・飲）

『新語書』「音・飲：ジム」は海陸音と、「陰：イム」は四県音と一致する。

『辞典』「音・陰・飲：イム」は四県音と一致する。

『用語』「音：ギム」は、2. 1. 2で述べたことから見て、四県音を表すものと考えられる。

2. 15. 2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
淫	ジム		イム	深	開	三	平	侵	以

①平・上・去声（開口） 四県 im — 海陸 gim（淫）

『新語書』「淫：ジム」は海陸音と、『辞典』「淫：イム」は四県音と一致する。

2. 15. 3 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
任	ジム		イム	深	開	三	去	沁	日
入	ニッ ニユッ ニユ ニユー		ニイプ	深	開	三	入	緝	日

①平・上・去声（開口） 四県 im — 海陸 gim（任）

『新語書』「任：ジム」は海陸音と、『辞典』「任：イム」は四県音と一致する。

②入声（開口） 四県 nip — 海陸 nip（入）

日母の入声字については、四県音・海陸音共に nip である。『新語書』「ニッ」、『辞典』「ニイプ」は四県音・海陸音と一致する。

『新語書』「入：ニユッ／ニユ／ニユー」は、何を反映するものかは不明である。

2.16 咸摂

原則として、一等・二等は四県音・海陸音共に am（入声は ap）、三等は四県音 iam — 海陸音 ɜam（入声は iap — ɜap）となる。

2.16.1 影母

例字	新語書	用語	辞典	撮	開合	等位	声調	韻目	声母
庵	アム		アム	咸	開	一	平	覃	影
暗	アム アン	アム アヌ	アム	咸	開	一	去	勘	影
鴨	アッ		アプ	咸	開	二	入	狎	影
押	アッ アッブ		アプ	咸	開	二	入	狎	影
壓	アッ		アプ	咸	開	二	入	狎	影
闕	ジヤム			咸	開	三	平	鹽	影
掩			アム	咸	開	三	上	琰	影
厭	イアム イヤーム			咸	開	三	去	豔	影

①平・上・去声（開口） 四県 am — 海陸 am（庵・暗・掩）

四県 iam — 海陸 ɜam（闕・掩・厭）

『新語書』「庵・暗：アム」、『用語』「暗：アム」、『辞典』「庵・暗・掩：アム」は四県音・海陸音と一致する。『新語書』「暗：アン」、『用語』「アヌ」は、「～暗哺」という語の音注で見られるものである。

『新語書』「闕：ジヤム」は海陸音と、「厭：イアム／イヤーム」は四県音と一致する。

②入声（開口） 四県 ap — 海陸 ap（鴨・押・壓）

『新語書』「アッ」、『辞典』「アプ」は四県音・海陸音と一致する。

『新語書』で「アッブ」が見られるが、これは語末での表記である。入声は全て「ーッ」と表記する『新語書』において、-p 入声を表す数少ない例である。

2.16.2 以母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
鹽	イヤム		ヤム	咸	開	三	平	鹽	以
葉	ジヤッ		ヤブ	咸	開	三	入	葉	以

①平・上・去声（開口） 四県 iam — 海陸 ɜam（鹽）

『新語書』「イヤム」、『辞典』「ヤム」は四県音と一致する。

②入声（開口） 四県 iap — 海陸 ɜap（葉）

『新語書』「ジヤッ」は海陸音と、『辞典』「ヤブ」は四県音と一致する。

2.16.3 日母

例字	新語書	用語	辞典	撰	開合	等位	声調	韻目	声母
染	ギヤム		ニヤム	咸	開	三	上	琰	日

①平・上・去声（開口） 四県 niam — 海陸 niam（染）

『新語書』「ギヤム」、『辞典』「ニヤム」は四県音・海陸音と一致する。

2.17 小結

以上、『新語書』・『用語（広東語）』・『広東語辞典』における影母・以母・云母・日母字の音注について、四県音・海陸音の字音に基づき考察を行った。その結果、以下の三つに分類できる。

①四県音と海陸音で声母・韻母が共通し、かつ三者全てでこの音を反映すると考えられるもの

②四県音と海陸音の字音の差異を反映すると考えられるもの

③その他の地域の字音を反映すると考えられるもの

①については、単母音の表記の差異（『新語書』では長音符で、『用語』『辞典』では同じ母音を重ねる⁽¹⁰⁾）、介音iの表記の差異（『新語書』における「イユー／ユー」等）、v-の転写の差異（『新語書』『辞典』は「ヴ」、『用語』はバ行）、舌面が高く半母音的な音の処理（『用語』では、i・e-をガ行に転写）、

韻尾 -m・-n・-ŋ / -p・-t・-k の転写等が挙げられる。『新語書』は、台湾総督府の刊行物の枠組みから外れた所に存在するものであるため、『用語』・『辞典』と表記の差異が見られるのも自然なことであろう。しかし、総督府の刊行物である『用語』・『辞典』でこれほどまでの違いが見られるのは、やはり依拠すべき統一された基準がないことの証左と考えられる。

②については、ほぼ全ての撰の三等・四等音で、四県音と海陸音の差異を反映するものが存在する。『新語書』においては、以下の撰で海陸音が見られた。

通撰日母 (2.1.4)、止撰 (2.3)、遇撰 (2.4)、臻撰 (2.6)、山撰 (2.7)、效撰 (2.8)、假撰 (2.10)、宕撰 (2.11)、梗撰 (2.12)、曾撰 (2.13)、流撰 (2.14)、深撰 (2.15)、咸撰 (2.16)

同一の撰内に四県音と海陸音が混在する状況については、複数のインフォマントの存在を考えても良いのだろうが、やはり四県音・海陸音が混在する状態を示していると考えべきであろう。

③については、ホーロー語や梅県語・潮州語・広州語・官話の影響を考えるべき例も散見された。特に、山撰三等・四等において、『新語書』・『辞典』の音注で四県音・海陸音共に一致しないものが多数見られた。これらは、梅県語の反映もしくはホーロー語の影響を考えるべきものである。

『辞典』の凡例には四県音に依拠するとの記述があるにもかかわらず、梅県語もしくはホーロー語の影響を考えるべきグループがあること、蟹攝・止攝・遇攝の舌音・歯音字の音注が海陸音との近似性を示すこと⁽¹¹⁾を考えると、『辞典』の依拠する方言についても再考する必要がある。

おわりに

『新語書』・『用語 (広東語)』・『広東語辞典』は字書ではないため、全ての音節を網羅するものではなく、用字には偏りがある。特に『用語 (広東語)』は戸口調査用のフレーズ集であるため、記載されているフレーズや字は限定的である。そのため、現段階では大まかな傾向を述べるにとどめる。

『新語書』・『用語』には声調表記がないため、四県音・海陸音で共通の声母・韻母を持つものについては判断できない。しかし、それらを除外しても、『新語書』には海陸音を表すと判断できるものが多数見られた。また、一字に

四口音・海陸音の双方が見られるものも相当数確認できた。

台湾客家語は、四口音が話者数・使用地域において優勢であるため、日本統治時代を通じて辞典・会話本は四口音に依拠している。しかし、四口音と海陸音の隣接する地域では、双方の接触により互いに影響を与え合い、一種の混合語が生じていたと考えられる。実際、現在の台湾では、四口音と海陸音の接触の結果、「四海音」が形成されつつある⁽¹²⁾。もちろん、20世紀初頭の段階で、どこまで四口音・海陸音の接触が進んでいたかについては更なる調査や考察が必要であろうが、『新語書』の音注は四口音・海陸音の混在状況を如実に示すものであり、かつ「四海音」の形成へとつながる前段階とも考えられる。

その他に、ホーロー語や梅県語・潮州語・広州語・官話の影響を考えるべき例も散見された。

現在、『新語書』および『用語（広東語）』の字音体系の整理作業が進行中であるが、声母・韻母の体系等の総合的な報告は別の機会に譲りたい。

註

- (1) 菅向榮『標準広東語典』「凡例二」で、仮名による標音システムを「符號假名」と称しているため、本稿もこれに従う。
- (2) 台湾では一般に「台語（台湾語）」と呼ばれる。また「閩南話（閩南語）」と呼ばれることもあるが、比較的中立的な名称として「ホーロー語」の使用が増えているため、本稿では「ホーロー語」と表記する。「ホーロー」は「福佬」「鶴佬」「河洛」等の表記があるため、「ホーロー」とする。
- (3) 台湾に居住する客家人の多くが広東からの移住者であったため、日本統治期の台湾における客家語は「広東語」と呼ばれた。従って、この時期に使用される「広東語」という名称は、今日一般的に言うところの広東語（広州語）ではないことに留意する必要がある。これは、香坂順一が「本冊子の「廣東語」とは臺灣に於ける所謂「廣東語」ではなく、廣東省城語即ち「廣州語」たることである。臺灣に於ける「廣東語」は、實は「客家語」であつて、支那方言の系統から言ふならば別な一系に屬する。この點誤解のない様にして戴きたい。」（『広東語の研究』緒言）と述べていることから分かる。本稿では、広東語（広州語）と区別するため、日本統治期の台湾における客家語を「広東語」と表記することとする。

- (4) 富田1999, p. 160
- (5) 彭馨平, p. 67~68
- (6) 山村2019, p. 193 (58)
- (7) 《汉语方音字汇》, p. 97 “俗读为“既”(既经)训读。”
- (8) 燕: ホーロー語 ian 文言音 (陰去声)
- (9) 邀・腰: ホーロー語 iau 文言音 (陰平声)
- (10) 山村2020
- (11) 山村2021
- (12) 羅濟立2019, p. 532-534

参考文献・資料

- ・菅向榮, 1933, 『標準廣東語典 附 臺灣俚諺集 重要單語集』, 臺灣警察協會
- ・臨時臺灣戸口調査部, 1905, 『明治三十八年 戸口調査用語』(外地國勢調査報告 第五輯: 台湾総督府國勢調査報告 第十二冊「明治三十八年 戸口調査用語 土語・廣東語」, 2000, 文生書院)
- ・臨時臺灣戸口調査部, 1905, 『明治三十八年 戸口調査用語 (廣東語)』(外地國勢調査報告 第五輯: 台湾総督府國勢調査報告 第十二冊「明治三十八年 戸口調査用語 土語・廣東語」, 2000, 文生書院)
- ・臨時臺灣戸口調査部, 1908, 『明治三十八年 臨時臺灣戸口調査記述報文』(JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.A06032544600、国立公文書館 所蔵)
- ・臺灣總督府, 1931, 『臺日大辭典』(1983, 『台湾語大辭典』, 国書刊行会)
- ・臺灣總督府, 1932, 『廣東語辭典』(1993, 『廣東語辭典』, 国書刊行会)
- ・臺灣總督府民政局學務部, 1895, 『臺灣十五音及字母: 附八聲符號』(旧外地關係資料アーカイブ http://opac.lib.takushoku-u.ac.jp/kyugaichi/htmls/views/2017_005.html)
- ・臺灣總督府民政局學務部, 1896, 『新日本語言集 甲號』(国立国会図書館デジタルコレクション <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/863157>)
- ・臺灣總督府民政局學務部, 1896, 『臺灣十五音及字母: 附八聲符號 訂正』(旧外地關係資料アーカイブ http://opac.lib.takushoku-u.ac.jp/kyugaichi/htmls/views/2017_006.html)
- ・北京大学中国语言文学系语言学教研室編, 1989, 《汉语方音字汇》, 文字改革出版社

『日本広東学習新語書』及び『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』所収の符号仮名(4)

- ・遠藤雅裕, 2016, 『台湾海陸客家語語彙集 附同音字表』, 中央大学出版部
- ・黄雪贞编写, 1997, 『梅县话音档』(現代汉语方言音庫), 上海教育出版社
- ・香坂順一, 1942, 『廣東語の研究 附常用文字聲音字典』, 臺北高等商業學校調査課
- ・李榮主編, 1995, 『梅縣方言詞典』(現代漢語方言大詞典・分卷), 江蘇教育出版社
- ・羅濟立, 2007a, 「『廣東語會話篇 (1916年再版)』の同字異注について — 声母を中心に」, 『台灣日本語文學報』22號
- ・羅濟立, 2007b, 「『語苑』から見た日本人による台湾客家語の学習研究 — 資料の内容と性質を概観」, 『地域文化研究』No.5
- ・中川仁監修、羅濟立著, 2019, 『『語苑』にみる客家語研究 (日本統治下における台湾語・客家語・蕃語資料 第2巻)』, 近現代資料刊行会
- ・彭馨平, 民國100 (2011), 「日治時期台灣的客語教材研究 — 以《廣東語集成》為例」, 國立台灣師範大學台灣文化及語言文學研究所碩士班學位在职進修專碩碩士論文
- ・富田哲, 1999, 「日本統治時代初期の台湾総督府による「台湾語」の創出」, 『国際開発研究フォーラム』11
- ・富田哲, 2003, 「1905年臨時台湾戸口調査が語る台湾社会 — 種族・言語・社会を中心に」, 『日本台湾学会報』第五号
- ・山村敏江, 2019, 「『日本広東学習新語書』及び『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』所収の符号仮名(1)」, 『神田外語大学日本研究所紀要』第11号
- ・山村敏江, 2020, 「『日本広東学習新語書』及び『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』所収の符号仮名(2)」, 『神田外語大学日本研究所紀要』第12号
- ・山村敏江, 2021, 「『日本広東学習新語書』及び『明治三十八年 戸口調査用語（広東語）』所収の符号仮名(3)」, 『神田外語大学日本研究所紀要』第13号
- ・袁家驊等, 1983, 『漢語方言概要』, 文字改革出版社

ウェブサイト・資料

- ・教育部 臺灣客家語常用詞辭典 (<https://hakkadict.moe.edu.tw/cgi-bin/gs32/gsweb.cgi/ccd=j6oEo0/webmgc?>)
- ・中央研究院語言學研究所 客英大辭典查詢 (http://minhakkaling.sinica.edu.tw/bkg/bkg.php?gi_gian=hoa)
- ・新北市客家語文館 (<https://www.hakka-language.ntpc.gov.tw/bin/home.php>)
- ・行政院客家委員會全球資訊網 (<http://www.hakka.gov.tw/>)